

# 共生の「花」咲かそう

—三洋ハートエコロジー株式会社  
岐阜事業所—

職場  
ルポ

EMPLOYMENT REPORT

(文) 清原れい子 (写真) 小山博孝



三洋ハートエコロジー株式会社 岐阜事業所

〒503-0116 岐阜県安八郡安八町大森180

TEL 0584-64-4795 FAX 0584-64-5359

三洋電機株式会社は、障害者雇用の取り組みを先駆的に始めた企業の一つ。今回は、その特例子会社「三洋ハートエコロジー」岐阜事業所を訪問した。現在、二名の指導者の下、七名の障害者が働き、定着率一〇〇%という、あたたかい雰囲気、「風通しのいい」会社である。

■園芸作業を中心に  
■特例子会社設立

東海道新幹線の岐阜羽島駅から車で数分、線路沿いに、箱舟をイメージしたという大規模な太陽光発電システム「ソーラーアーク」が見えてくる。そこが三洋電機のハイテク拠点、岐阜事業所で、工場内の厚生棟に特例子会社「三洋ハートエコロジー株式会社」岐阜事業所がある。



浅野直美所長

「人と環境にやさしい企業をめざす」との経営理念を掲げて、一九九八年四月、三洋ハートエコロジーが設立された。会社案内には「すべての人たちが同じように働き、生きがいを感じ、幸せになれるように。基本姿勢はノーマライゼーションです。園芸事業を中心に、さまざまな障害をもつ人たちに働く場と障害の程度に合わせた仕事を提供しています」とうたわれている。

主な事業は、花卉、苗の栽培と販売、室内観葉植物のレンタルと管理、フラワーギフト、花壇・コンテナガーデニングの設計・管理、有機肥料・生ゴミ堆肥生産と販売、グルメ頒布会と、クリーンメンテナンス事業、野菜作りなど。本社・大阪事業所（大阪府大東市）と岐阜事業所、群馬事業所（群馬県邑楽郡）を合わせて、従業員は七四名。その中で三一名



農業高校の「やさいづくり教室」で学び、指導にあたる中井国夫課長(右)

の障害者が働いている。九九年四月に設立された岐阜事業所は現在、二名の指導者の下、知的障害者六名、聴覚障害者一名が、野菜作り、観葉植物や花壇の管理、花の販売、クリーンメンテナンス、容器包装リサイクル、三洋電機岐阜事業所の電気精密部品製造ラインの補助作業、きのこの種菌栽培などを行っている。

従業員寮を活用したという仕事場は、スペース十二分。取材は、所長の浅野直美さん、課長の中井国夫さんと、障害がある社員を代表して高木康幸さんと安藤隆生さんに集まっていた。

浅野所長は、二〇〇〇年春に三洋電機岐阜事業所から出向してきた。中井課長は三洋電機厚生棟の寮監を定年退職後、二〇〇〇年十一月に再就職した。

■花の名前、価格…と  
■記憶力抜群

「ハートエコロジーの社名には、人ハート、地球・環境ハートエコロジーを大切にしているという思いが込められています。まず、ハートの部分、人材育成からご説明します」と所長の浅野さん。

岐阜事業所は設立当初、先代所長が花の展示即売や緑地の草取り、バラ園の肥料やりなどを行っていた。高木さんは一カ月の実習を経て、二〇〇〇年一月に入

社した。それまでに何か所もの職場を転々。当時働いていた会社の移転で退職せざるを得なくなり、地元のハローワークに求職をして、ここを紹介された。

「自分でできる仕事なら、やってみようと思いました。苦手なことは、草取りや、枯れ葉や落ち葉を集めること。得意なのは花の名前を覚えたり、世話をすることです」と高木さん。

落ち葉掃きが苦手というその理由を、浅野所長が解説してくれた。

「工場内の落ち葉掃きがうまくできなかったので、次の日も任せたら、いつまでたっても帰ってこない。見に行ったら、ちっとも進んでいないんです。その日は北風が強くて、風上に向かって掃いていたんですね。前日教えた通りに一生懸命に掃いていた。これは、指導者の責任です。苦手というのは、そういう意味です。その代わり、記憶力はすばらしい。花の名前と値段はみんな覚えていきます」

展示即売会では大活躍。花の鉢と名札、値段を合わせるのは、高木さんの担当だ。「きつと頭の中にカメラが入っていて、瞬時に写真に撮ってしまうんですけどね。花の値段も、前に売った価格まで覚えていきますから、彼に任せれば間違いありません」

抜群の記憶力はさまざまところに発揮されていて、一度行った場所までの道順、野球の記録、大相撲の結果、車種な



観葉植物の育成管理を担当する高木康幸さん(32歳)

どの記憶はお手のもの。ただし、計算は苦手だそう。現在は主に、電気精密部品製造ラインでの準備工程で働いている。

「最初は戸惑いましたが、上司に教えてもらってできるようになりました。面倒見がよくて、いい人ばかりです。少しずつここで働いていけるといいと思います」と高木さん。

## 根気、集中力、持続力がすごい

安藤隆生さんは、岐阜養護学校工業コースでパイオ栽培を勉強した後、自宅待機をしていて、二〇〇一年一月に就職した。

「メリクロンと言って、胡蝶蘭のフラスコ栽培をするために求人を出しまし

た。障害者が胡蝶蘭のクロール栽培をするというと、業界ではびくつきられます。その後、三人体制で自分たちの給料分を稼げるようになって、自立できたと思った矢先に取引先の会社が傾いてしまいました。高級胡蝶蘭は贈答品です。九・一一テロの後、不景気もあり、急激に売れなくなりました」

現在は、主に電気精密部品の材料出しの仕事と、あわび茸の種菌作りもしている。安藤さんは、入社当初ほとんど話をしなかった。

「ずっと引きこもっていたみたいで、ほんとうにしゃべらん子でした。隆君、隆君と家族のように付き合ってきたので、だんだん心を開いてくれて、話ができるようになりました。いまは障害があるとは思えないくらいになっています。休んだのは、運転免許の切り替えのときだけです」

車が大好き。給料を貯めて、あこがれのスポーツカーMR-Sを買った。

「安藤君が自分で中古車展示場へ行って、見つけてきました。私は、新人が入ってくると最初に給料や会社の仕組みをやさしく話して、だから目的をもって無駄なお金を使うなと言っています。彼がこの車を買いたいという目的をもって、



クローン苗の育成・栽培の技術を利用して、きのこ(あわび茸)の種菌作りをする安藤隆生さん(22歳)



工場内の花壇や樹木の管理

給料を貯めて買った。偉いと思いました」  
 休日は、唯一の親友が住む浜松までドライブする。  
 「ここから二時間ぐらいです。会社はいいところです」と安藤さん。  
 歌も大好きで、宴会ではマイクを独占

するとか。母校のバスケットボールチームでも活躍中だ。

「彼はすぐ仕事を覚えて、いちばんむずかしいフラスコ栽培をしていました。私は不良品率が半分ぐらい出るのですが、安藤君は〇・二%いくかどうか。数量的にも品質的にも新記録というほどやってくれました。集中力、根気と持続力はものすごい。非常に器用ですね」

## ジョブコーチが会社と家族との橋渡し役

安藤さん以降に入社した人たちは、岐阜障害者職業センターのジョブコーチが職場定着への支援をしてきた。この日は、障害者職業カウンセラーでジョブコーチ事業担当の岩下真理子さんと、ジョブコーチの永田令子さんと同行していただいた。永田さんのほかに、三名のジョブコーチがかかわっている。

「会社側と家族との仲介役も、重要な仕事の一つです。日誌がありま

すから、今日の出来事や練習してもらいたい項目をご家族に伝えたり、一般社員の方たちと顔をあわせますので、身なりをきちんとする

ことなどをお願いしています」

浅野所長も、ジョブコーチには家族とのパイプ役を期待している。「技術的なことは私のほうで指導



浅野所長と話す岐阜障害者職業センターの岩下真理子障害者職業カウンセラー(中)と永田令子ジョブコーチ(右)

しますが、モラル、マナー、本人の困っていること、悩んでいることなどを相談や指導してもらっています。ご家庭から会社に行いにくいこと、会社からご家庭に言いにくいことを間に入って話していただくので助かりますね。そのほか、マニュアルどおりに作業をしているかどうかを確認して、間違っていたら注意してもらっています」

クローン作業、クリーンメンテナンス作業など、これまでの指導記録をまとめた、浅野所長手作りの分厚い作業標準書がある。

「作業書はだれでもわかるものでなければと思います。クリーンメンテナンス



有機肥料・生ゴミを堆肥化して野菜の栽培にも挑戦している

作業の手順書は、障害者にも理解できるように漢字を使わないで作って、その手順で作業をするようにしています」

四〇代になって初めて社会に出たという聴覚障害者への指導は、最初、筆談でのコミュニケーションがうまくとれず、地元ハローワークにSOS。手話通訳者の派遣を頼んだこともあった。まだジョブコーチの支援がなく、手探りでたいへんだったとか。

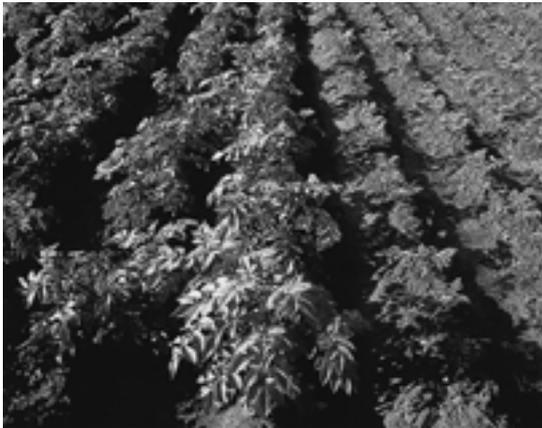
「ジョブコーチにはよくやっていただいていますので、障害者たちもなじみやすいのだと思いますよ。来られると、ニコツとしてあいさつしていますから」

全員がほぼ皆勤。定着率は一〇〇%。「順調ですね？」と問うと、双方から「山あり、谷ありですね」と。だが、その顔はにこやかだった。

## こんな仕事をしています

給料は日給月給制。全員が最低賃金をクリアしている。三洋電機岐阜事業所の電気精密部品の製造ラインが忙しく、その日は四名が仕事に出ている。そこで高木さんと安藤さんをモデルに、日々の仕事を再現してもらった。

まず、車で数分の畑へ。四反の畑は七カ所ほどに分散している。食堂で出る生ゴミや残渣を堆肥化し、肥料として使い、収穫した野菜は再び食堂へ。まさに循環型リサイクルだ。タマネギ、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、ニンジンなどの生産量は年二〇トン。「素人集団」には見事だと思ったら、浅野所長は



ジャガイモ、ニンジン、タマネギ、サツマイモなどを20t近く生産して、社員食堂へ納入している

農業の経験があり、中井課長は就職にあたり、大垣農業高校のやさいづくり教室に毎週土曜日半年間通って、基本を学んだそうだ。

「我流で畑は作っていましたが、基礎的なことをきちんと身につけていないと信用されません。食堂の野菜はここで作るだけでは賄えませんので、足りない分は仕入れてもらっています。市場価格よりかなり安く提供していますが、作った分すべてが売れるのは助かりますね」

次にソーラーアークの間に。

「日本の中心に位置する岐阜で、これは世界一の太陽光発電システムです」見上げると、とても大きい。その周囲の花壇の整備や観葉植物の水やりも行っている。

「近くのゴルフ場では蘭などの鉢花を賞品として使っていたのですが、安くていい品物だと評価していただき、取引が増えています」

クリーンメンテナンス事業は、五階建ての寮の掃除を請け負っている。担当するのは安田孝さん。入社してから大きく成長した一人だ。

お話をうかがった部屋では、電気製品のトレイやダンボールのリサイクル、リユースを行う。クローン栽培の設備では、隣のきのこ生産者の協力であわび茸の種菌作りに成功。月一回出荷している。

## スタッフを増やすより 障害者の雇用を

さらに障害のある人たちを雇用していきたい。そのために、浅野さんは次の事業展開を考えている。

「バイオの設備と技術技能を生かして、カトレアのバイオ栽培とか、バイオ事業に再挑戦していきたいと模索しているところです。これからは健康・医療の分野の仕事にもチャレンジしようと思っています。ハートエコロジーでは病院の病室や手術室の殺菌消臭器を発売していて、その中に入れる殺菌剤を作る計画です。四月には養護学校の卒業生が一人入社しますが、スタッフを増やすより、一人でも障害者を増やしていきたいですね」  
ハートエコロジーの生みの親である三



社員寮を清掃する安田孝さん(29歳)

洋電機本社の常務取締役をはじめ、岐阜事業所のバックアップもある。

「殺菌剤のゲルを作るには純水がたくさん必要ですが、工場から半導体を洗浄する二次純水を使ってくださいと言われています。障害者ができそうな仕事のお話をいただきますし、社員への啓蒙教育もしていただいています。職場が散ってしますので、昼食は社員食堂でみんな一緒に食べていますが、『がんばっているなあ』と人事部長が励ましてくれまます」  
社外からかかわる、永田さんと岩下さんの感想。

「その人の個性も障害特性もすべて受け止めてくださる会社です。隠さずに相談できる関係ができていますので、私たちもずいぶん助けていただきました」

「家族的なあなたかい目で見守ってくださって、一人ひとりの障害特性だけでなく、性格にもマッチした指導方法を提案されているところがすごいと思います」

浅野所長は、実業団バレーボールの選手として活躍した後、岐阜事業所の工場でのテレビの生産ラインに携わった。そのとき担当したラインに聴覚障害者が働いていた。

「身内にも障害をもつて



容器のリサイクル

いる人がいますので、ハンディをもって人たちの気持ちは、ほかの方よりはわかるつもりです」

以前の職場で寮生の父親役を務めてきた中井さんは、同じ役割を期待されての再就職だった。

「私の勧めもあって、息子は福祉分野で仕事をしています。息子からは、根気よく指導していかなければいけない、どんな小さなことでもいいことはほめてあげる、感情を出して叱ってはいけないといつも言われています」

知的障害がある社員が最初から最後まで同席しての取材は初めてのことで。障害のある社員の自立を応援する、あたたかな思いが伝わってくる、「風通しのいい」会社だった。